

2021年 社長年頭挨拶(要旨)について

山陽特殊製鋼株式会社(社長 樋口眞哉、本社 兵庫県姫路市)は、2021年1月5日(火)に本社講堂にて、2021年始業式を挙げていたしました。始業式における社長挨拶の内容(要旨)は以下のとおりです。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、世界規模で経済活動が急激に減退し、当社も大きな影響を受け業績が悪化した。世界各地で新型コロナウイルスの感染が未だ高位で継続しており、元の状態に戻るにはしばらく時間を要すると考えている。

新型コロナウイルスの感染拡大は、新常态(ニューノーマル)といわれるように、人々の生活や働き方を大きく変え、わが国では遅れが指摘されていたデジタル化の進展が加速する契機にもなるため、当社としてもDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進と活用が重要なテーマとなる。

また、地球温暖化防止に関する国際的な機運が高まるなか、日本政府も温暖化ガスの排出量を2050年に実質ゼロにするカーボンニュートラルの方針を表明した。自動車の電動化への移行も大幅に前倒しされる模様で、当社グループにとって大変インパクトのある脅威といえる。一方で当社は昨年10月に「長寿命風力発電用の軸受鋼の開発」と「熱交換器用の高強度耐熱鋼管の開発」という2件のイノベーション事例をもとに、経団連が主導する「チャレンジ・ゼロ」に参加した。「脱炭素社会」の実現に向けた取り組みは、水素による半製品の加熱実験に成功したOvakoの事例などを含めて、当社グループの強みが発揮できる大いなる機会になるとも認識し、グループを挙げてカーボンニュートラルの高いハードルにチャレンジしていきたい。

このような認識のもと、2021年の始まりに「安全」、「業績の早期回復」、「シナジーの早期発現」の3つのことをお願いしたい。

従来から申しあげているとおり、安全と健康は事業活動の大前提。安全が全てに優先するということを肝に銘じて、今年一年、一人も被災者を出さないことを全員と誓いたい。新型コロナウイルスの感染予防策も引き続き徹底し、職場から絶対にクラスターを発生させない覚悟で臨んでいただくようお願いする。

また、受注が回復してきたとはいえ、スクラップをはじめとした原料価格が急騰し、収益の圧迫要因となっている。環境が刻々と変化する中、各層のコミュニケーション強化に努め、現在取り組んでいる収益改善対策を確実に遂行するとともに、コストミニマム操業も意識しながら、受注を確実にそして迅速に生産・販売につなげていただきたい。生産構造改革として取り組んできた第2棒線工場のボトルネック解消工事が今月の新加熱炉稼働で一巡する。この先数十年にわたり当社の競争力維持・向上に寄与する投資であり、各部門の力を合わせて活用いただきたい。

そして、3年目に入る今年は、日本製鉄、Ovakoとの3社連携によるシナジーを本格的に積み上げていかなければならない。シナジー効果の創出は同業他社にはない我々の強みであり、今までに出来なかったことや、現状の問題を乗り越えるための強力な糧にもなり得る。既存の思考の枠に囚われることなく、広い柔軟な視野とスピード感を持って、日本製鉄も含めたグループの総合力を活用し、相乗効果の発揮に取り組んでいこう。

2021年は新しい中期経営計画がスタートする年。人口減少に伴う内需減少、地産地消化や自国第一主義による直接・間接輸出の減少、同業他社との競争の激化など大きな逆風が見込まれる環境のなか、当社グループは、待ったなしで構造改革と黒字化が求められている。

当社グループ存続と発展のための正念場として、皆さんと共に新しい中期経営計画に取り組んでいきたい。そのためにもこの1年、健康に留意し、元気に活躍されることを期待する。

山陽特殊製鋼株式会社
代表取締役社長 樋口 眞哉